Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 24第43号
2025年（令和七年） 2月14日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電 話 （03）3534-7411（代）
F A X （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ10階
ホームページ https://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

当週（2月6日～12日）の国際石油市場は、対カナダ・対メキシコの関税賦課の行方、対ロシア・対イランの経済制裁の影響、連邦準備制度理事会（FRB）の金利政策等、米国新体制をめぐる問題を中心に、小幅な変動に終始した。

NYのWTI原油先物市場は、6日、続落の70.61ドルで始まり、7日からは3営業日続伸、11日には73.32ドルを付けたが、12日は71.37ドルに反落して終わった。

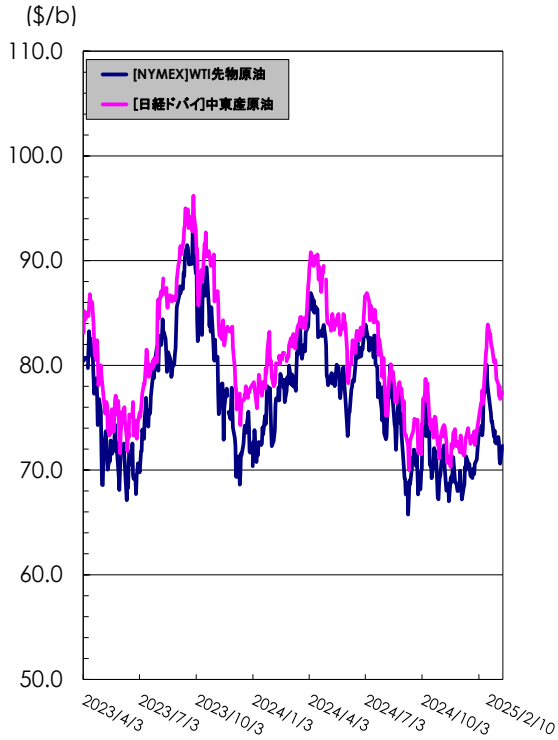
また、中東産ドバイ原油/東京市場（3月渡し）も、前週（1月30日～2月5日）は77.10～79.90ドルの範囲で推移したが、当週は、2月6日76.80ドル、7日77.00ドル、10日77.40ドル、12日78.90ドルだった。

対ドル為替レート（TTM）は前週（1月30日～2月5日）154.07～155.71円の範囲で推移したが、当週は、2月6日152.61円、7日151.30円、10日151.96円、12日153.26円だった。

財務省が2月7日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、1月中旬の原油輸入平均CIF価格75,716円で前旬比347円高、ドル建て76.26ドルで前旬比0.37ドル安、為替レートは1ドル/157.84円と円安が進んだ。

そのような中で、2月10日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.1円安、軽油も0.1円安、灯油は同横ばい（18リットルベース）、ガソリンの全国平均価格は184.5円となった。2月13日～19日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は、13.7円（補助金がない場合の次週予想価格198.7円で、185円を超える補助率100%支給部分）と、実額ベースでは前週比3.7円の減額となった。

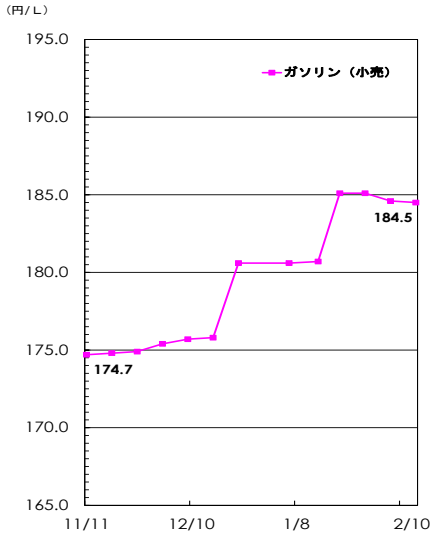
原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	2/2 ～ 2/8	2,628	▼ -40	▼ －
	トッパー稼働率	（%）	〃	75.9	▼ -1.2	▲ －
	原油在庫量	（千kl）	2/8	10,389	▲ 129	▼ －
価格	中東産原油（日経ドバイ）	（$/bbl）	2/10	77.40	▼ -0.80	▼ -3.3
	WTI先物原油（NYMEX）	（$/bbl）	2/10	72.32	▼ -0.84	▼ -4.6
	原油CIF単価	（$/bbl）	1月中旬	76.26	▼ -0.37	▼ -9.52
	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	75,716	▲ 347	▼ -1,994
	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	157.84	▼ -1.48	▼ -13.81
	外国為替TTSレート	（¥/$）	2/10	152.96	▲ 3.75	▼ -2.57



（単位：千kl、円/㍑）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	在庫		2/8	1,734	▼ -69	▼ –
価格	先物［期近物/終値］	（TOCOM/東京湾）	2/4 ～ 2/10	86.0	▼ -1.0	▲ 5.0
		（TOCOM/中部）	2/10	84.0	▼ -2.0	▲ 5.0
	小売［週動向］	（資エ庁公表）	2/10	184.5	▼ -0.1	▲ 10.1

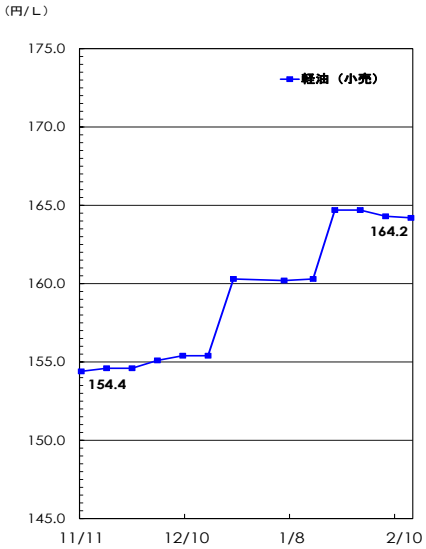
※先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

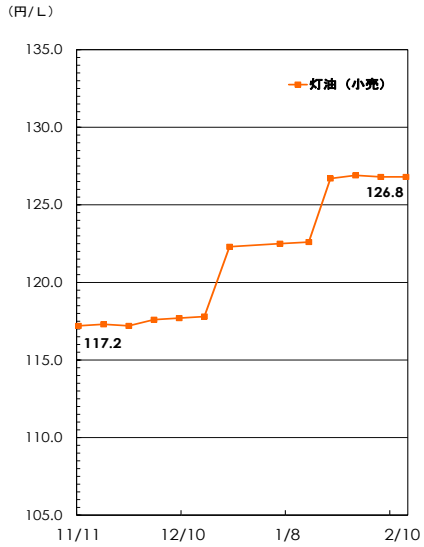
軽油			今週		前週比	前年比
需給	在庫		2/8	1,424	▲ 11	▼ –
価格	先物［期近物/終値］	（TOCOM/東京湾）	2/4 ～ 2/10	88.2	▲ 0.2	▲ 6.6
		（TOCOM/中部）	2/10	–	–	–
	小売［週動向］	（資エ庁公表）	2/10	164.2	▼ -0.1	▲ 10.1

※先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	在庫		2/8	1,809	▼ -76	▲ –
価格	先物［期近物/終値］	（TOCOM/東京湾）	2/4 ～ 2/10	88.0	➡ 0.0	▲ 5.5
		（TOCOM/中部）	2/10	87.0	▼ -2.0	▲ 7.0
	小売［週動向］	（資エ庁公表）	2/10	126.8	➡ 0.0	▲ 10.2



■ 関連情報

1　海外/原油（WTI原油先物市場）

前週（1月30日～2月5日）のNYMEX・WTI先物市場は71.03～73.16ドルの範囲で推移した。

当週、2月6日は、サウジアラムコが3月のアジア向け出荷の予想を上回る引き上げの通告、米国の対イラン経済制裁強化にもかかわらず、トランプ政権の原油・天然ガス増産への期待感、あるいは、先日の対カナダ・対メキシコ関税賦課の1か月先送りの安堵感から、続落した。3月物終値は前日比0.42ドル安の70.61ドル。

週末7日は、米国の関税政策に対する不透明感が漂う中、前日の米国によるタンカー・個人に制裁対象を拡大するなど対イラン制裁強化に伴う供給不安感から、4日ぶりに反発した。3月物終値は同0.39ドル高の71.00ドル。

週明け10日は、トランプ政権による相互関税・鉄アルミ等への個別関税の追加の発表があったものの、ハマスによる人質解放の停止に伴うパレスチナ情勢の緊張激化やこのところの原油先物の値ごろ感から、買いが大きくなり、続伸した。3月物終値は同1.32ドル高の72.32ドル。

11日は、対ロシア・対イランの経済制裁強化による両国からの供給減少が懸念され、また、米エネルギー情報局（EIA）は、2025年前半の原油価格横ばい、後半の軟化の予想を発表したことから、3営業日続伸した。ただ、米連邦準備制度理事会（FRB）のパウエル議長は、議会で、利下げを急ぐ必要はないとして、利下げ先送り姿勢を示したことで、失望の売りもあり、上値は限られた。3月物終値は同1.00ドル高の73.32ドル。

12日は、この日発表の米国石油在庫週報で、原油が市場予想を上回る積み増し報告があり、また、米国の1月の消費者物価指数（CPI）が上振れし、パウエルFRB議長は、議会証言で、状況によっては利上げもありうると発言したことで、4営業日ぶりに反落した。3月物終値は同1.95ドル安の71.37ドル。

2　海外/米国石油市場

米国エネルギー情報局（EIA）が2月12日に発表した7日時点の在庫週報によると、原油は前週比410万バレル増と市場予想（300万バレル増）を上回る積み増しが続いているが、ガソリンは同300万バレル減と取り崩された。

EIAによると、2月10日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比4.6セント高の1ガロン3.128ドル（126.2円/㍑）と3週ぶりの値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比0.5セント高の1ガロン3.665ドル（147.9円/㍑）と2週連続の値上がり。

ベーカーヒューズ社によると、2月7日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比1基増の480基となった。

3　国内/原油処理量

石連週報によれば、2025年2月2日～2月8日に休止したトッパー能力は47.4万バレル/日で、前週に対して7.9万バレル/日増加した（全処理能力は311.0万バレル/日）。

原油処理量は262.8万klと、前週に比べ4.0万kl減少。前年に対しては5.6万klの減少。トッパー稼働率は75.9%と前週に対して1.2ポイントの減少、前年に対しては1.2ポイントの増加となった。

4　国内/製品在庫量

2月8日時点の在庫は、ジェット、軽油、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった

ガソリンは173.4万kl、前週差6.9万kl減。前年に対しては10.7万kl少ない。

灯油は180.9万kl、前週差7.6万kl減。前年に対しては20.2万kl多い。

軽油は142.4万kl、前週差1.1万kl増。前年に対しては12.7万kl少ない。

A重油は75.0万kl、前週差0.6万kl減。前年に対しては6.1万kl多い。

C重油は168.5万kl、前週差0.4万kl増。前年に対しては16.8万kl少ない。

（単位：千KL）

	今週 (2/8)	前週 (2/1)	前週比	
ガソリン	1,734	1,803	▼ -69	(-4%)
ジェット燃料	740	704	▲ 36	(5%)
灯油	1,809	1,885	▼ -76	(-4%)
軽油	1,424	1,413	▲ 11	(1%)
A重油	750	756	▼ -6	(-1%)
C重油	1,685	1,681	▲ 4	(0%)
合　計	8,142	8,242	▼ -100	(-1.2%)

5　国内/元売会社製品卸価格

2月4日～10日のドル建て中東原油価格は前週比値下がり、為替レートも円高が進み、元売会社の卸建値は値下がりしたものと見られる。ただ、補助金は3.7円減額されるため、2/13からの実質卸価格は値上がりとなる模様。

6　国内/製品小売価格

2月10日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円安の184.5円、軽油も同0.1円安の164.2円、灯油は18㍑ベースで同横ばいの2,282円（1㍑ベースでも横ばいの126.8円）。ガソリンは2週連続の値下がり、軽油も2週連続の値下がり、灯油は2週ぶりに値下がりが止まった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが15都県、横ばいが7県・値下がりは25道府県だった。全国最安値は岩手県の177.2円、その次は愛知県の177.5円であった。他方、最高値は高知県の193.8円。最も値上がりしたのは愛知県（同1.0円高）、最も値下がりしたのは埼玉県（同2.1円安）だった。

次回調査時（2/17）のガソリンの小売価格は、小幅な値動きが予想される。

（単位：円/㍑）

（資エ庁公表）[週動向]		今週　(2/10)	前週　(2/3)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	184.5	184.6	▼ -0.1	23/9/4	186.5
	灯油	126.8	126.8	➡ 0.0	08/8/11	132.1
	軽油	164.2	164.3	▼ -0.1	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（https://oil-info.ieej.or.jp）に掲載しています。
次回（2024第44号）の公表は、2/21（金）14:00 です。

2024年12月より石連週報の公表内容の見直しがあり、「3.国内/製品出荷量」の項目・内容を変更しました。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉
石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

②【原油価格】〈 WTI先物原油、中東産原油 〉
WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場（取引の中心限月）の午後の中値を採用。 ※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。
為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】
元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉
約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁ーHPに掲載）。